３地区複合再編案Ｂ

資料２－１４

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
中央地区	第一小学校	①小学校は２校ともかなり規模が大きくなり、クラス替えや運動会などの大きな行事ではプラスになると思われる。 ④中央地域に加え、西部、北部をすべて統合して２校にすることで、コストメリットは最大化される	①施設一体型校①の児童数が、建て替え時から推計人口が出ている2059年までに児童数が約120人減（かつ６クラス減）となるため、それを見越した設計にする必要がある。 ①施設一体型校②の中学校が小規模で、運動会など大きな行事の際に物足りなさがある。 ②施設一体型小中一貫校の生徒数が多い ④西部・北部の子供にとって通学距離があまりにも大きくなりすぎる ④将来的な公共交通の維持に不確定要素が存在することから、遠距離通学の不安が大きい。このため、子どもをもつ若い世代の保護者にとって西部・北部地域が住みたい、住み続けたいと考える場所ではなくなる可能性がある ④学校の規模が大きくなりすぎる ④通学圏域が大きくなりすぎることにより、子どもたちの地域性の違いが大きい。 ④特別支援が必要な児童にとって遠距離通学の負担が大きい ④施設一体型小中一貫校とする場合、体育や部活動などの活動における場所の確保が困難となる ⑥通学時間が１時間を超えるのはどうかと思う。分校とかがあっても良いのではないか。	⑤施設一体型小中一貫校①が一小校舎に入り切るのか？	④中央地域に加え、西部、北部をすべて統合して２校にすることで、コストメリットは最大化される ⑤適正だと思う	①御岳山や二俣尾５丁目から通学する児童生徒がいる場合、小学校も中学校もかなり遠いので、交通手段の選択肢を増やすか、朝の開始時間や冬季の帰宅時間に工夫が必要だと思う。 ②御岳・成木・富岡からは公共交通の本数が少ないし遠いので無理があると思う。 ③区分が広すぎる ④西部・北部の子供にとって通学距離があまりにも大きくなりすぎる ④将来的な公共交通の維持に不確定要素が存在することから、遠距離通学の不安が大きい。このため、子どもをもつ若い世代の保護者にとって西部・北部地域が住みたい、住み続けたいと考える場所ではなくなる可能性がある ④学校の規模が大きくなりすぎる ④通学圏域が大きくなりすぎることにより、子どもたちの地域性の違いが大きい。 ④特別支援が必要な児童にとって遠距離通学の負担が大きい ④小学校を１小、４小位置に一貫教育校として２校にした場合、学童の受け入れニーズに対応しきれるのか疑問 ⑥小学校も中学校も通学時間に問題があると思う。スクールバスがあっても厳しいのではないかと思う。		①人数が多いため、全校行事等が盛り上がると思う。 ①その年に上手くいかなかったことの反省を翌年に反映できるチャンスは６年より９年ある方が増える可能性がある。 ①より年上の上級生と接点があることで学年が進むことへの憧れが膨らむ可能性がある。 ①小中両方に子供が在籍している場合、面談や運動会などが同日で行われるのであれば、保護者は楽だと思われる。 ③小中学生の一貫教育ですが、こちらの考えも良いと思います。 ⑤小中学校合同のイベントを行うことで幅広い年代と交流できる。 ⑤中学の部活の種類や様子を小学生の時から知ることができる（興味をもちやすい） ⑤教師同士の情報共有がしやすい(学習内容や個人の特性など) ⑤施設を共有することで維持管理しやすく、費用を抑えられる。	①9年間同じ場所に通っていると新鮮味がない。 ①より年上の上級生と接点があり、より先が見える分、失望・不安が生じる可能性がある。 ①子供も保護者も、心機一転したい場合、難しい。 ②小学生と中学生が同じ校舎内で過ごすメリットが分からない。 ⑤施設を共有することで、一か所壊れるなど使用できなくなると代替する施設がなくなる	④義務教育学校ではなく施設一体型の小中一貫教育のメリットは大きくないと考えます。教育効果として一貫教育を目指すのであれば、一部の理系国立大学で大学院まで６年間一貫教育が進んでいるように、１人の校長の元で先生も前期課程高学年から後期課程まで一気通貫の教育が可能となる義務教育学校を目指すべきです。 よって、単なる小中一貫教育なのであれば「施設一体型」のメリットは小さく、「施設分離型」はデメリットにならないと考えます。
	第四小学校	③現第四小学区の児童は、施設一体型の小中一貫校としての教育を受けることが安心してできる。 ④生徒数、学級数は問題なし	③児童数405人のため、生徒数190人で不安定さを抱える。		③第四小としては、現在地に施設一体型小中一貫校が設置され、ありがたい。		④この案はメリット、デメリットと言うより子供達通学の負担が大。 ２地区複合案でも書いたが西区と中央に小中一貫校した方が良い	③施設一体型小中一貫校として新しい時代を目指す児童・生徒像の教育を推進できる。		④この案だと小中一貫教育と言うよりただ学校を少なくするだけだと思う。 前問でも書いたが西区と中央に小中一体型一貫校が良い。
	吹上小学校	①小中学校は、１学年の学級数、学校全体の学級数のどちらについても学校活動を実施する上で適正であると考える。 ③施設一体型小中一貫校①②いずれも望ましい学校規模を維持できる点				①西部地区および北部地区から中央地区への通学は、山間部からの遠距離通学を強いることや利用する公共交通機関の脆弱性が大きなデメリットとなり、児童、生徒に与える負担は大きく増大すると考える。 ③御岳山、二俣尾５丁目地区から施設一体型小中一貫校①への通学および成木７丁目、富岡１丁目地区から施設一体型小中一貫校②への通学距離が長くなる点		③施設一体型小中一貫校が２校となることで、行事や交流が活発に行われ、めざす児童・生徒像を共有しやすい点		①小中一貫校に関しては、義務教育を通じて一貫した教育活動を実践することができることが大きなメリットである。小学校の６年間と中学校の３年間を分け隔てることなく継続した中での学習指導計画の立案や児童、生徒の人間関係をより豊かに醸成することが期待できる。また、中一ギャップを防ぐうえでも効果的である。小中一貫校による教育の効果をより発揮することができるのは、中央地区再編案Ａ、２地区複合案の「施設分離型」よりも中央地区再編案Ｂ、３地区複合案Ｂの「施設一体型」であると考える。
	第一中学校	①適当なバランス ④一貫校２校とも、学級数は適正である ⑤小中一貫校が２校になる、学級数などは良い	⑤御岳方面からの通学が遠い		①一中校舎の有効活用が出来れば、新たな機会創出が期待できる	①二俣尾、御岳、成木、富岡の児童並びに生徒通学負担 ①成木小の良さ損失 ④公共交通を使う地域が多くなる前提での案で、遠い地域には		①「小中一貫教育」を軸に置くのであれば、適当な案と思います ④中一ギャップの解消や、５．６年生にとっては良いかもしれ	④規模が大きく、行事などはどうするのか？ ④小学生にとって(特に低学年)いろいろな面で安全面は大丈夫なのか？	

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
						負担が大きい。※スクールバスの導入を考えてほしい ⑤通学が遠すぎる		ない。 ⑤9年間同じ学校に通うことが子供も落ち着いて学校生活ができる。	⑤同じ環境なので、いじめなどがあると不登校の子が増えると聞いたことがある。	
	吹上中学校	②小中学校とも、再編成で適正規模になったので、これでよいと思います。 ⑤吹上小学校③と同様の意見	③中学校の再編として考えると、2059年吹上中は施設一体型小中一貫であるが、2059年には生徒数が190人であり不安を持つ		③吹上中としては、通学に関してありがたい新しい学校の位置である。	①通学を考えるとデメリットばかりな気がする。 親の送迎が増えそう。 ②3地区再編案A･Bともに成木小・七小・六中・七中の児童・生徒にとって、通学距離及び、時間がかかりすぎると思います。小規模特認校として存続させるのが､望ましいと思います。 ③御岳山・二俣尾5丁目・富岡1丁目の生徒については配慮が必要 ④小、中学生、共に通学するには区域が広過ぎる ⑤吹上小学校③と同様の意見		③吹上中の生徒が将来中央地区施設一体型小中一貫校で学ぶことができるのは、OECDが提唱するAIの時代にどう生きるかの学びを得ることができる。		①施設の面を考えると一体型の方がいいと思う ②小・中一貫教育の趣旨から、施設一体型が望ましいと考えます。 小中一貫校開校前に、一貫校についての説明を指導し、小中教員同士が、十分に話し合うことが大切であり､必要と考えます。 現在も小中連携を行っていますが、「その延長上に一貫校が有る」との理解ではないことを、教職員に認識させることが必要と考えます。

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
西部地区	第五小学校	④特に音楽/体育/図工（美術）/道徳等でチームや学習他者との共同作業、直接触れ合い会話することが重要な教科に効果が得られる(国が提示する児童生徒数の適正規模値を一定の条件下で期待できる) ⑤青梅駅側の児童にとっては友達が増えていいと思う ⑦一定の人数が集まること、クラス替えができること、集団活動を通し子ども同士での育ちあい、異年齢児のかかわりを期待。				④平溝地区：通学時間７０分のうち徒歩６６分+公共交通機関４分となり実際に小学一年生の通学は困難かつ危険。 ④御岳地区：ケーブル始発に乗車しても始業時間に間に合わず非現実的、降雪（豪雨）時は通学に支障が出る場合がある。 ⑤御岳、二俣尾エリアの児童にとっては通学が大変。親が最寄り駅まで送らなくてはならない。 ⑥通学負担は西部地区再編案A以上にかかるため問題外としたい ⑦通学時間が長く負担が大きい。部活、放課後、友達・家族の時間が少なくなる。公共交通機関も維持できるのか。通学路の整備等の安全性の確保、スクールバス運行を考えてほしい。		④施設分離型小中一貫校の位置づけとしての再編指針は期待できる ⑤一貫施設の方が交友関係が生まれいいと思う。別々にするよりコストも抑えられる ⑦異年齢異学年交流ができる、友人関係が変わらないこと、一貫した教育環境が保障されスムーズに学習を進められる。	④小学校卒業というゴールから中学校入学という新たなスタート目標を持つ刺激が少なくなる可能性があり、成長過程の中で常に繰り返されるスタート/ゴールのサイクルの中でも大きな節目である機会の喪失につながる。 ⑦保育園～中学生まで同じ顔触れで、関係の固定化が懸念される。	
	第六小学校	③望ましい規模が長く維持できる。 ⑧小学校:2036 年 23 人で 24 学級、2050 年 30 人で１８学級、2059 年 24 人で 18 学級→少人数クラスなので児童一人ひとりに目が届きやすいと思われる。 中学校：2036 年 27 人で 12 学級、2059 年 24 人で 12 学級→少人数クラスなので、生徒一人ひとりに目が届きやすいと思われる。		④適正かどうかわからない	④学校の数が少なく、予算はかからない	①吉野・三田地区、特に御岳山から遠すぎます ①全地区通学時間がかかりすぎ、子どもの負担が多いと思う ①1 年生（6 才）には遠いです ①広すぎる ②特に御岳山地区および成木地区の子ども達へ、現状を超える負担を強いるべきではない。 再編＝学校の削減である以上、現状よりも何かしらの負担増が生じることはやむを得ないと認識しているものの、あくまでも「義務教育」課程に基づき通学していることを鑑みても、行政として最大限の配慮をぜひともお願いしたい。 ③御岳山の子どもたちは通学時間が更に長くなる。 ③第一小学校は JR 青梅駅前なので通学しやすい面もあるが、JR 青梅線、奥多摩線は雪、台風、倒木、動物の侵入等により遅延や運休も多い。 ④御岳山に住んでいる人が不便である。小学校低学年は自分で通えない。通学時間が長く、遊びや人間関係構築の時間が保証されないことが心配。送迎する保護者が出てくるので負担が大きくなり、仕事に影響が出るのではないか。さらに少子化が進み、人口減が予想される。 ④成木地区、小曾木地区は山を越えての通学となり、冬場の通学困難が予想される ④通学する子どもの遊びの保証、地域への愛着、人間関係の構築時間の現象が予想される ⑤学区に対して立地距離が不均衡なので、学生輸送手段(運行頻度)の強化が必須。 ⑧長距離通学となり、児童・生徒の負担増が懸念される。特に御岳山と二俣尾５丁目の低学年の通学時間が 70 分から 80 分であり、その上、冬場には日没時間が早くなるのでなお負担が大きくなると思われる。	⑤学内行事に伴う保護者参加の場合、来校の際に車を使わざるを得ない。駐車場の是非も含めて検討が必要。	②施設一体型については、小中学校間で資産を共有できるようになるため、効率的な学校運営が期待できる。 ③小中一貫が整うことで、見通しを持った教育が実現できる。 ⑧小中一体型のため校舎建設は１か所で済む。	⑤地域交流や学習の観点に立った時に対象が広い為、どこの地域に主軸をおくのか。または学年によって分散するか。 ⑧2050 年に小学校で６学級減少するので、空教室が出てします。活用方法を	
	西中学校	①学校の規模は維持できる ③学級数は満たしている。 ④２０５９年度で、小学校１８学級、中学校１２学級で、適正規模となっている。 ④２０５９年度以降も、再編成の心配が少ない。 ⑤小学校 18 学級、中学校 12 学級で問題ない。 ⑥適正だと思う ⑦規模は施設一体型小中一貫校で理想的	⑤一小学校は土砂災害警戒区域であり、施設が問題である。小中一貫校の建設としては、敷地面積が狭いのではないか。	②第一小学校、第四小学校の位置に施設一体型の小中一貫校を設置するとしているが、現第一小学校に約 720 人、現第四小学校に約 600 人規模の、しかも小中学校双方の機能を有する学校の設置が可能なのかについては十分な検討が必要と考える。	①公共交通機関へのアクセスは良い ②西部地域に関して言えば、実際に通学時間が案で示された時間で済むなら本案も良案と考える。 ③山間部は、どの再編案においても負担となると思うが、無理のない再編案だと思う。（現状での山間部の負担は計り知れない） ④場所的にはかなり東に寄っているが、拠点駅(青梅駅)及びバス停が近く、通学の利便性が良い。 ④日向和田、畑中地区は徒歩	①災害時、子どものひきとり困難。 ②御岳山、三田地区、北部地域からの距離が遠くなり、小学生の特に低学年の負担が大きくなる。 ④ＪＲを利用する第６小学校の児童の通学時間が、二俣尾－青梅間の１０分ほど長くなる。 ④ＪＲを利用する西中学校の生徒の通学時間が、石神前－青梅間の８分ほど長くなる。 ④梅郷の児童・生徒の通学時間が、長くなる。 ④ＪＲでは、動物との接触等で遅延することがある（ケーブルの終電に間に合わないと迎えに来てもらう必要がある)。 ④雪等で計画運休することがある（ただし、頻度はそう多くないと思われる)。 ⑤一小は土砂災害警戒区域であり、施設が問題である。また、グランドも狭く、一貫校としては敷地が狭いのではないか。一小への道が狭く、消防車などの緊急車両の侵入も不安があり、災害が拡大する可能性がある。 ⑦一小は土砂災害警戒区域に指定されているが、設置できるか不安。		①親は学校周辺の環境把握の習熟度が増す ②西部地区再編案Ａの理由から、施設一体型である本案は望ましい形ではある。 ③二校とも小中一貫校となる。 ④小中施設一体型であり、多くの友人ができ、社会性・多様性を育てることが出来る。 ④中１クライシスを回避できる。 ④野球、サッカー等の人数を要するクラブ活動等の集団活動や運動会等の行事を制限なくできる。 ④小学校と中学校の情報共	①子どもは飽きる ④中学生がいるため、小学校６年生でのリーダーシップ形成が弱くなる。 ⑤小学校低学年からの人間関係が、中学卒業まで継続すると考えられる。	③すべての案でもメリット・デメリットはあると思う。子どもの未来を一番に考えて話し合って欲しいです。 ④梅郷と三田地区から、学校が消滅する。

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
					で、和田町以西の梅郷地区は都バスで通学が可能。 ④築瀬、沢井、三田、御岳、御岳山は、ＪＲで通学。 ④公共交通を利用すれば、身体的な負担は軽減される。 ⑤青梅線に乗れば青梅駅までの通学はさほど問題ではない。 ⑥通学時間は良いと思う	5・6小、西中、成木小、七小、六・七中の児童・生徒の通学時間が長くなる。スクールバスの導入が必要。		有ができる。 ④学校行事の負担を軽減できる。 ⑤9年間を考えた教育課程を編成することができる。施設一体型なので、高学年が低学年の面倒をしっかりとみることができる。逆に悪い点が低学年に波及してしまう。 ⑥施設一体型２校でシンプルで良い ⑦9年間を通してのカリキュラムであるため学びが深まる（中一ギャップ・学力向上・人間関係の構築等）。		

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
北部地区	第七小学校	④六中では、体育祭もできない人数なので、人数が増えれば元のような体育祭や修学旅行ができても良いと思う。 ⑤２０年後くらいの将来に検討を始める時が来るかもしれないと思われる案。現在は考えられない案。 ⑥大人数による多様性の認識が育つ。 ⑦北部小中学校の４校及び西部の３校が統合したのちに児童・生徒数がさらに減少し再び編成することが考えられるため、始めから４小学区、１小学区へ統合することで、校舎建て替え費用や今回同様に再編するための人件費を抑えられる。 ⑧児童・生徒数は適正になる	③間違いなく成木、小曾木、御岳、二俣尾地域はさびれていく。音楽会・運動会・展覧会・学芸会は地域全体で子の成長を見守る機会である。 ④不登校の子どもが増えるのではないか？ ⑤今の段階で３地区複合案の検討を行うことは児童・生徒数の数合わせとしてはあり得るが、この案を公表すること自体が青梅市のシティプロモーション上では大きなマイナスとなる。吉野、沢井、小曾木、成木からは学校をなくす案であり、青梅市に住居を移動することを考える可能性がある若者は学校への距離を気にするため、青梅市は教育行政に力を入れない市であると見られてしまい、青梅市全体としての児童・生徒数が想定よりも減少してしまうことにつながりかねないと心配している。 ⑥教育にムラができる。できない子のフォローが希薄になる。 ⑦西部地区については児童・生徒数が相当増えることで特に中学生が校庭、体育館など小学校と共有することで部活動などに支障を来たすのではと心配もあります。		⑤２０年後くらいの将来に検討を始める時が来るかもしれないと思われる案。現在は考えられない案。そのころには、学校施設数を減らすためには第一小、第一中も施設一体型が望ましいと思われる。 ⑦バス通りから程近い家庭にとっては直通のため現在の小学校への通学と変わらない。中学生については定期支給があるのであれば特に問題はないと思います。	③通う児童生徒の負担感が大きい（長すぎる）御岳からだと往復で２時間２０分、大人でもつらい通学時間 ④中学生は自転車通学も可能と思うが、やはりバスの本数が少ないことが通学の負担になる ⑤現状では、小曾木地区に学校がないことが大きなデメリット。施設一体型の小中一貫校とする試行地域には小曾木地区が最適と思われる。場合によっては、市民センター機能も取り込んでの試行を行い、青梅市全体の施設維持予算の低減にもつなげる取り組みに進めて欲しい。 ⑤山林も田畑もある地域での教育の素晴らしさを小曾木地区の学校が実践してくれているにも関わらず、規定の小規模特認校のバス路線と山林教育を理由に小曾木地区の学校をなくすことは現時点ではデメリットしか感じない。 ⑥徒歩通学ができない。送迎できない家庭もある。 ⑦成木小（旧９小地域）や小曾木（厚澤地域）から４小学区へは通学時間を要する。（西地区に比べれば近いとはいえ）また、夏季は良いが冬季（１０月下旬～３月上旬）家庭出発・帰宅時に周囲が暗い状況となる。特に厚澤地域については薄暗い（街灯が少ないがホタルなど自然環境を考えると街灯は増やさない方が望ましいと感じてます。） ※資料では富岡から３０分（徒歩＋公共交通）となっているが、厚澤地域はバス通りまで徒歩２０分はかかります。 ⑦西地区についても北部同様でバス通りや電車駅まで遠い家庭には厳しいと思います。 ⑧通学時間が長いと感じる		⑤２０年後くらいに検討開始の必要性があれば検討を開始するレベルと感じる。現在は考えられない案。 ⑥多様性 ⑦同一施設で９年間通して学習ができる。七小で行っている縦割り班活動と同様に下級生の成長に役立ち上級生は責任感が宿ること。 ⑦９年間通して環境の変化が少ないため中１の１学期（夏休み明け含む）での不登校生徒数が減少する可能性がある。 ⑦施設分離は特に中学生にとって部活動や高校受験時に集中しやすい環境となる。	③青梅市は子育てに優しくないイメージが浮かんだ。一極集中で本当に子育てしやすい環境が疑問です。 ⑤児童生徒数があまり多くなると教育効果は低下を招く。 ⑥人数が多すぎる ⑦北部については通学時間が長くなるため、自宅学習時間にも影響が出る可能性がある。小学生は学童の（タやけランド含む）あり方、習い事の時間や中学生は部活動の時間や特に３年生の高校受験に対する学習塾に影響が出る可能性がある。（小中学生ともに帰宅し習い事へ行くため相当な時間を要する。軽食など摂る時間がないなど） ⑦西地区についても北部同様で通学に時間を要することで自宅学習時間や学習塾に対する時間の確保が難しくなる可能性があるので通学時間に対する援助などが必要と思います。	⑧施設一体型にして、縦割り班を作り、勉学以外で交流をした方がいいと考える。施設分離型では、そのことは難しいと感じる。試験的に運営したらいいと考える。
	成木小学校	③適正規模、クラス替え、友達が多くできる。施設一体型の小中一貫校ができる。全てが新しい施設の学校ができる	③急に大規模校になるので戸惑う子どもが出る	④この案は市の予算削減としか思えない。		③小中学校もスクールバスが絶対に必要だと思う（成木小の時の思いです） ④スクールバスの台数を増やす必要がある	③現一小に施設一体型小中一貫校を作るのが良いと思う。3 地区複合案 A だと現一小・一中の校名のままになることがありえるので、全校なくして新しい学校を作るのが良いと思います。		④人数が多くなる分、いじめや不登校が増えるのではないか	③やるのであれば施設一体型がいいと思う
	第六中学校	⑥六中では、体育祭もできない人数なので、人数が増えれば元のような体育祭や修学旅行ができても良いと思う。 ⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧規模は満たせると思う	④児童数・クラス数を文科省推薦の規模は暫く確保出来るが、小規模特認校により、地域の学校に馴染めず、現在七中に通っている一定数いるであろう児童をどうすべきかの課題は残る。 また、少人数で手厚く教育を受けられるメリットがなくなってしまう。（当然一クラス 30 名全員には目は届かないが、少人数であれば目が届き児童のフォローもしやすいのではないか） ⑤第七小学校③と同様の意見 ⑥不登校の子どもが増えるのではないか？ ⑦第七小学校⑤と同様の意見		④小曾木地区単体で考えれば、公共交通機関での通学も可能ではある ⑦第七小学校⑤と同様の意見	④成木地区を考えた場合は公共交通機関のみでの通学は不可であり、スクールバスの運用がやはり必要となってくる ⑤第七小学校③と同様の意見 ⑥中学生は自転車通学も可能と思うが、やはりバスの本数が少ないことが通学の負担になる ⑦現状では、小曾木地区に学校がないことが大きなデメリット。施設一体型の小中一貫校とする試行地域には小曾木地区が最適と思われる。場合によっては、市民センター機能も取り込んでの試行を行い、青梅市全体の施設維持予算の低減にもつなげる取り組みに進めて欲しい。 ⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧登校に７０分以上は酷では、近ければ勉強にも遊びにも時間が使える		⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧大人が動かしやすい	⑤第七小学校③と同様の意見 ⑦第七小学校⑤と同様の意見 ⑧本当に一体型が良いのか子供に聞く必要があるのでは	④日本経済新聞によると、1994 年以降少子化対策に投じた金額が 66 兆円超にもかかわらず、出生率に増加が見られない以上、税金の増収は見込めるはずもなく、施設維持費を考えると、『施設一体型』以外は考えなれない
	第七中学校	①すべての案の中で一番望ましい人数・生徒数であると思う。 ⑤小中一貫校になり、人数も丁度よい	⑥生徒数増が見込まれる、学区の地域が広すぎる。通学等色々問題が浮上するような気がする		①再編に当たり、それぞれの地域の人が大きな変化を受け入れなくてはならない状況となるが、一部地域ではなく市全体のことで、受け入れる側	①通学に時間・距離を要する人には負担で反発・異論が出ると思う。 ②公共交通を使う前提になっていますが、現状「都営バス」の利用の場合、学校終了時刻などに合わせての運行になっておらず、学校の終了時刻によっては、60～90 分の待ち時間が発生します。		①北部の生徒・児童数減少は顕著で施設一体として学ぶ方が、行事や学習においても一緒に出来ることがあったり、縦のつながりも大切にしてい	①分離として当初は良くても、いずれくるさたに人口減少の際、また統合となるかもしれないなら将来を長く見据えて一体型の方が良いと思	

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
					も心情として納得いくこともあると思う。 ③地域の理解が得られれば解りやすい再編案です ⑤施設一体型小中一貫校①は駅に近いので電車も利用できてよい ⑥今でも小中一貫交流（マラソン大会等）があるので、小中一貫校は良いと思う。	この点に関して、どのように考えていくか？は必要です。また、通学バスを手配するにも、バス乗車時間が妥当なのかの検討も必要。 教育は国の基本であり、将来の投資です。 教育を受けるのは権利でも、受けさせるのは義務なので、通学に応じて、小学校・中学校の適切な通学時間として今後も、通学バスの手配・都営バスなどへの協議が必要で継続していただきたい。 ⑤御岳山等は９年間も通学が遠いのは負担 ⑥人との出会いの機会が少なくなる		けると思う。	う。 ⑤学校が合わないと９年間一緒はつらい	